

時報文藝

夏

(六) H S 生

其處には發見された何物かも有つたであらう、こんな瞑想から醒める、全身冷気を覺える、夕陽の西に落ちて、淡黄色は山傳ひに延びて燈臺から水平線上迄薄く紫色に引つて居て、波は相變らず行きつ戻りつして居る。何時流されて何時辿り着かうとも考へて居ない様に、下駄の古びたのや、梳の毀れたのが間に間に漂つて見える。僕等、六足の足駄はM君が先達となつて青竹に引掛けて、思ひ／＼の歌や話をして砂を踏んで歩く。空には一面星が散へ切れぬ程散らばつて、西の端の山嶺には、僅かに星らしい姿を止めて居るものもある砂は歩むに従つて黒づんで行く、日は全く落ちて邊りは暗く、たゞ波と星とが互に上下に中心を取つて居るばかり。

ハガキ集

投書歓迎

▲最近變手古な日本式ともゲロク式ともつかぬ女が着る服が流行りだした、十五六の小娘共が着て大道歩するのには見よものだが三十三四のテカケだのチリメン婆アだの草餅共がお揃でケツのデツカイ處へ水色のダンブクロを着流してお稱荷様へおまわりのあの格好のよきと來たら何と申あげてよいやら……昭和の御代とも相なれば違つたものだ。(天保時代生)▲南町裏氷屋の娘さん、御前は大變若い客に親切なそうで評判がよいが夜の二時頃迄裏町遊りてアイさんの手の足なんかもんでやると奥さんに祈り殺されるぞ。(注意生)

暑中御伺申上候

平町會議員一同

大内提燈
内提燈
型提燈

平町一丁目(日進堂隣)

電話(呼)三三六番

二葉印刷所

平町字仲町
電話七四三番

中風靈藥

青應山家傳
定價(一週分)九〇
(二週分)一七〇
(三週分)三〇〇
男女中風症、腦溢血、動脈硬化症、逆上引下げ、頭痛、言語難澁、半身不隨、其他中風より起る諸症に偉効を奏す。是非御試用を勧めし。

代理店 平町五丁目角 山野邊藥局

上品雅味

割烹末廣

懇切勉強

電話四二二番

父乙三郎儀新益に相當り候へ共時節柄提燈其他一切の供物御辭退仕度候條何卒不惡御諒承被成下度以紙上申上候也

阿部政右衛門

オピール錠

平町一丁目(電話四六二番) 大平屋藥店

靴とカバンは

福山に限る

平町役場前 福山靴店

夏!!!

旅行に外出に

涼し氣な「パラソル」

麦帽の道行

夏物の御用意は何時も新し味の溢るる「ツルヤ」へ

平町四丁目 一ツヤル店

平看護婦會

會長 清野キヨ
平町字南町(電話三〇七番)
看護婦派出の需めに應じます

謹啓

永興院淨圓蝶華清大姉新益に相當り候處時節柄提燈其他供物一切辭退仕り度候間此段御諒承之程願上候
昭和四年八月九日

永山和平

平町田町本通

市原病院

内科、小兒科、市原卯太郎
外科一般、婦人科、市原陸郎
外科梅毒淋疾皮膚病、市原三三男

中元謝恩特別第二回大興行

▲來週上映 大河内傳次郎 全日活オール
復歸作品 沓掛時次郎 スタキヤスト
原作 中川藤吉、林長二郎主演

劍士 人形 武士 全
武士道華かなりし時、武士に生れ劍を佩いし人形武士の灰色の宿命史である。

日活作品 島耕二、瀧花久子主演
悲喜 私人 彼女 全
行進曲 私 彼女 全

無抵抗主義の彼、弱いくセンチメンタルな彼の権化、彼の性格が涙ぐましい喜劇を生んでゆくのです。

グイクトルニゴイ氏原作 セミセラールの時代映畫化
第二篇 噫 無情 全

鳥羽陽之助、常盤操子、梅村蓉子
九日替り 普通席 金十錢 日活平 館 電四六六

外科専門 X光線科
平町南町 上田外科醫院
電話一二九番